



2023年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年7月31日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <https://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 2023年8月4日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の業績(2022年10月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	2,096	5.2	21		19		35	
2022年9月期第3四半期	2,212	5.7	6	90.6	7	90.5	13	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	2.49	
2022年9月期第3四半期	0.95	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期第3四半期	1,439	1,097	76.2	77.50
2022年9月期	1,352	1,061	78.5	75.00

(参考)自己資本 2023年9月期第3四半期 1,097百万円 2022年9月期 1,061百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期		0.00		0.00	0.00
2023年9月期		0.00			
2023年9月期(予想)					

2023年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期3Q	14,436,600 株	2022年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	2023年9月期3Q	278,800 株	2022年9月期	278,800 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期3Q	14,157,800 株	2022年9月期3Q	14,157,800 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当第3四半期累計期間において、商品につきましては、買いやすい価格帯に設定した新商品開発や既存商品の規格見直しを強化し、顧客数の確保と売上高の拡大に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間の売上高は2,096,932千円（前年同四半期比5.2%減）、営業損失は21,827千円（前年同四半期は営業利益6,925千円）、経常損失は19,317千円（前年同四半期は経常利益7,012千円）、水海道工場を売却したことによる固定資産売却益82,449千円を特別利益として計上したことにより、四半期純利益は35,308千円（前年同四半期は四半期純損失13,489千円）となりました。

なお、水海道工場売却に伴い、資産のグルーピングを見直した結果、小山工場賃貸収入・費用を営業外収益・費用として計上することといたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当セグメントにおきましては、「三代目茂蔵」ブランドを「工場直売所」から「豆腐専門店」へと、転換を押し進めております。

当第3四半期累計期間におきましては、引き続き開店から12時までの時間帯に「朝市」を開催し、顧客の来店頻度向上を図りつつ更なる顧客数確保のため店頭商品の大幅な見直しを行ってまいりました。

出店につきましては条件や店舗形態等の見直しを行い、出店準備を継続して進めております。

これらより1店舗平均の顧客単価は前年同四半期比99.2%、1店舗平均の顧客数につきましては、顧客の来店頻度向上を目的とした「朝市」の開催、店頭商品の大幅な見直し等により全時間帯で増加し、同117.8%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は店舗数減少の影響等もあり1,826,208千円（前年同四半期比5.9%減）となりましたが、1店舗平均の売上高は前年同四半期比117.0%となりました。セグメント利益（営業利益）につきましては、仕入価格の上昇による売上総利益率の低下や人件費の上昇等により65,173千円（前年同四半期比29.7%減）となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は270,724千円（前年同四半期比0.7%減）、セグメント利益（営業利益）は20,475千円（前年同四半期比20.8%減）となりました。

なお、当第3四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第3四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	35	—	3	32
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	281	131	23	389
合計		316	131	26	421

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して86,462千円増加し1,439,104千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加134,659千円、水海道工場を売却したことによる長期未収入金の増加319,668千円、一方で水海道工場売却及び減価償却等による有形固定資産の減少388,135千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して51,153千円増加し341,942千円となりました。主な要因は、買掛金の増加42,731千円、未払金の増加14,338千円、未払法人税等の増加7,408千円及び長期借入金の減少14,775千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して35,308千円増加し1,097,162千円となりました。これは四半期純利益35,308千円の計上により利益剰余金が35,308千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。

なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、通期につきましては第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	465,911	600,570
売掛金及び契約資産	61,997	63,052
商品及び製品	35,155	35,226
原材料及び貯蔵品	2,914	3,173
その他	44,110	73,262
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	610,058	775,255
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	42,858	30,587
構築物(純額)	3,829	3,421
工具、器具及び備品(純額)	8,137	5,553
土地	562,970	189,970
その他(純額)	2,491	2,619
有形固定資産合計	620,287	232,152
無形固定資産	4,355	4,423
投資その他の資産		
敷金及び保証金	117,317	107,372
長期未収入金	0	319,668
その他	820	429
貸倒引当金	△197	△197
投資その他の資産合計	117,941	427,272
固定資産合計	742,584	663,849
資産合計	1,352,642	1,439,104
負債の部		
流動負債		
買掛金	155,173	197,905
1年内返済予定の長期借入金	20,004	22,500
未払金	44,242	58,580
未払費用	36,171	35,282
未払法人税等	14,218	21,626
その他	1,928	1,972
流動負債合計	271,738	337,867
固定負債		
長期借入金	16,650	1,875
その他	2,400	2,200
固定負債合計	19,050	4,075
負債合計	290,788	341,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	△17,697	17,611
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,061,853	1,097,162
純資産合計	1,061,853	1,097,162
負債純資産合計	1,352,642	1,439,104

(2) 四半期損益計算書

(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,212,776	2,096,932
売上原価	1,482,769	1,512,553
売上総利益	730,006	584,379
販売費及び一般管理費	723,081	606,207
営業利益又は営業損失(△)	6,925	△21,827
営業外収益		
受取利息	8	2,581
受取賃貸料	—	7,125
受取保険金	200	—
その他	138	15
営業外収益合計	347	9,722
営業外費用		
支払利息	259	160
賃貸費用	—	7,048
その他	0	4
営業外費用合計	259	7,213
経常利益又は経常損失(△)	7,012	△19,317
特別利益		
固定資産売却益	—	82,449
特別利益合計	—	82,449
特別損失		
減損損失	2,963	3,307
固定資産除却損	0	109
店舗閉鎖損失	4,609	7,136
特別損失合計	7,573	10,554
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△560	52,576
法人税、住民税及び事業税	12,929	17,268
法人税等合計	12,929	17,268
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,489	35,308

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,940,018	272,757	2,212,776	—	2,212,776
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,940,018	272,757	2,212,776	—	2,212,776
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,940,018	272,757	2,212,776	—	2,212,776
セグメント損益	92,673	25,840	118,513	△111,588	6,925

(注) 1. セグメント損益の調整額△111,588千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、2,963千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,826,208	270,724	2,096,932	—	2,096,932
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,826,208	270,724	2,096,932	—	2,096,932
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,826,208	270,724	2,096,932	—	2,096,932
セグメント損益	65,173	20,475	85,649	△107,477	△21,827

(注) 1. セグメント損益の調整額△107,477千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、3,307千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。